

## 5. 柏木、伴谷地域

### (1) まとめ

- 区・自治会への未加入世帯が増加するなか、ごみの捨て方のルールなどの徹底が難しくなっている。
- 伴谷地域は、住宅団地と旧集落の課題が大きく異なるため、一体的に事業に取り組むことに難しさを感じている。
- 戸建て住宅に住む外国人市民が多いことから、外国人対応についての意見があった。



### (2) 個別意見（抜粋）

- ①区・自治会へ未加入であるにも関わらず、自治への苦情の申し出もあり、対応に苦慮している。行政には、区・自治会への加入率を上げる施策に取り組んでほしい。
- ②区・自治会未加入者のごみ捨てのマナーが悪化している。ごみの捨て方の周知などを徹底してほしい。
- ③元教員などが集まり、外国にルーツを持つ子どもを対象とした勉強会を開催している。
- ④外国人市民とは文化が異なるため、ごみ捨てや普段の生活の中で誤解が生じやすい。区長がどうしても伝えたいことを行政で翻訳してほしい。
- ⑤区・自治会の存続のために外国人市民との共生は必要である。外国人、女性や若者からの新しい視点などを取り入れて、地域を変えていきたい。
- ⑥働きながら役員をするのは困難。若い世代が担えるように、区・自治会の役員の役割を変えるべき。
- ⑦市への書類の作成や行事への出席など、就労者が役員をするのは難しい。
- ⑧コロナ禍を経て、時代の流れに沿った事業への見直しが必要。
- ⑨伴谷地域は、自治振興会のなかでも地域事情が大きく異なる。団地住民は「横のつながり」をもっと増やしたい。従来の集落は神社・仏閣を維持管理しながら、農業、奉仕作業、行事などへ参加しなければならず、限界を迎えている。自治振興会の体育祭や文化祭への参加も正直厳しい。
- ⑩新たに造成された住宅団地で自治会組織がない地域もある。地域の取りまとめ役がいがないため、相談等ができない。